

# DIGITABLE 第46回勉強会レポート

2011年6月18日 於：亀戸文化センター 第一会議室



Digitable 基礎講座「ホワイトバランスと色調の調整」：高木大輔講師  
参加者全員による“ライトニングトーク”（持ち時間5分）  
Photoshop 研究講座「レンズフィルター」：平野正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

## Digitable 基礎講座 第3回

### ホワイトバランスと色調の調整：高木大輔講師

#### ○ホワイトバランス

露出はフィルム時代からと共通の問題だったが、ホワイトバランスはデジタルカメラならではの特徴的な技術要素で画像の美しさ決定づけるものとなる。

人間の目はどのような状況でも白は白と認識できるが、カメラでは太陽の光は日中は白い光だが、朝や夕方は赤い光になる。また、電球の明かりは赤く、蛍光灯は緑っぽいといった具合で、色かぶりとして不自然な色調の写真になってしまうのだ。

デジタルカメラではホワイトバランスの設定だけで解決できるようになり、たいへん便利になったといえる。

これは、光の種類や状態に応じてカメラの色再現を補正して常に白いものは白く、グレーはグレーにする機能で、適正に設定すれば自然な色調の写真にすることができる。

最近の機種ではホワイトバランスの「オート」も高精度になったが、思い通りの色再現を得るためには、やはり光の種類親状態に合ったホワイトバランスに設定したほうがよい。もちろん逆に意図的に色かぶりさせて個性的な作品作りに生かすなど、ホワイトバランスの特性を逆手に利用した表現も可能だ。

#### ○トーンカーブ：スポイトを使用したレベル補正方法

「レベル補正」および「トーンカーブ」では、メニュー右下の3つのスポイトで、画像のハイライト、シャドウポイント、およびグレーバランスを設定できる。ハイライトスポイトをクリックし画像の最も明るい点をクリックすると、ハイライトポイントが設定され、画像が明るくなるのが分かる。シャドウ側も同様に最も暗い点にしたい部分をクリックするのが基本的な調整の仕方だ。

ハイライト、シャドウポイントをそれぞれ（RGB245/15）程度に設定するのが「印刷上の安全圏」といわれている。真ん中のグレースポイトは、カラーバランスを調整してニュートラルグレーを設定するものだ。



WBをわざとずらすことによって作品効果を狙う



元画像とスポイトを使用した調整ポイント



調整後の画像 ホワイトバランスも整った

## ○基準点の見つけにくい場合の

### ホワイトバランス調整作業

作例の写真はタングステン光でRGBのバランスが大きく崩れている。また古いカメラの設定のためもあり背景をグレー指定してもカーブに大きな破綻をきたしてしまう。このような場合は各チャンネルを手作業で操作する方法が確実だ。情報パレットで各チャンネルのヒストグラムを表示し、そのヒストグラム領域が相似するように操作するとカラーバランスが整ってくるのが分かる。説明図ではスペースの関係で重ねてあるが、操作パネルの位置は自由に動かせるので、画像を見ながらじっくり行えばよい。ホワイトバランスの調整は各チャンネルのレンジを揃える作業が原則だということがよく理解できると思う。

## ○一般的なトーンカーブの調整方法

トーンカーブでは、基本である45°の斜線より部分的に上げ下げすることによって、調子の変化を自在に作り出すことができる。

画像のコントラストを強調するにはS字カーブ、コントラストを抑えるには逆S字カーブとなる。

このコントラストの強調カーブの場合、斜面が急なところほど階調の変化が大きくなるわけだが、カラー画像を使用している場合はそのカラーの彩度の強調につながるので、色合いの変化を望まない場合はコントラストの調整後に色相彩度のコントロールが必要になる場合もある。

\*\*\*\*\*

## 参加者全員による「ライトニングトーク」

(各自持ち時間5分)

H講師はアンセルアダムスと宮武東洋の珍しい「収容所」の写真集。宮武は太平洋戦争中、アメリカにある日系人収容所で隠し持ったレンズでカメラを作り、収容所で暮らす日系人を撮影したことで知られる。

T講師はホームページ更新やツイッターについて。

KSさんは地元土浦での荒涼たる震災後の写真を披露。

YAさんはNUDE撮影の会場探しの苦労。

MMさんは谷中と長野県信濃町の写真をプリントで。

STさんは4月の京都の写真、実相寺、醍醐寺、南禅寺、哲学の道、平安神宮などで桜を中心に。

TEさんは所属する日本建築写真家協会の写真展から。20人の写真家の合作による銀座の大パノラマが秀逸だ。

NYさんは震災の被災地に行かれたそうだが、今月はお話のみ、写真はまた来月発表。

IF氏はAdobeBridgeでのスライドショー制作を試してみた。

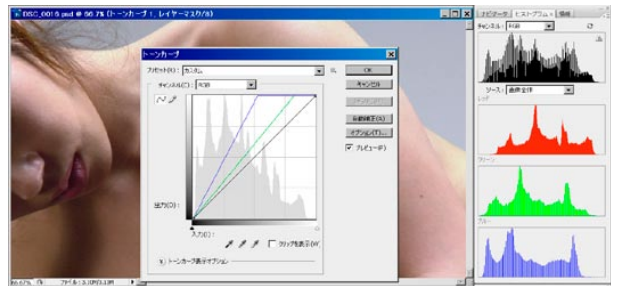
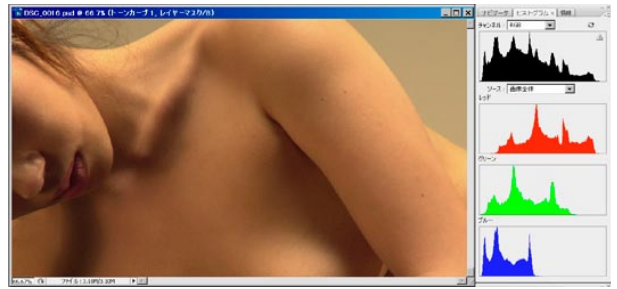
KK氏は富士さんと日の出の風景。農鳥(のうどり)という言葉も教えていただいた。

AYさんは昨秋訪れたアウシュビッツ収容所の写真を荘厳なスライドショーにまとめられた。

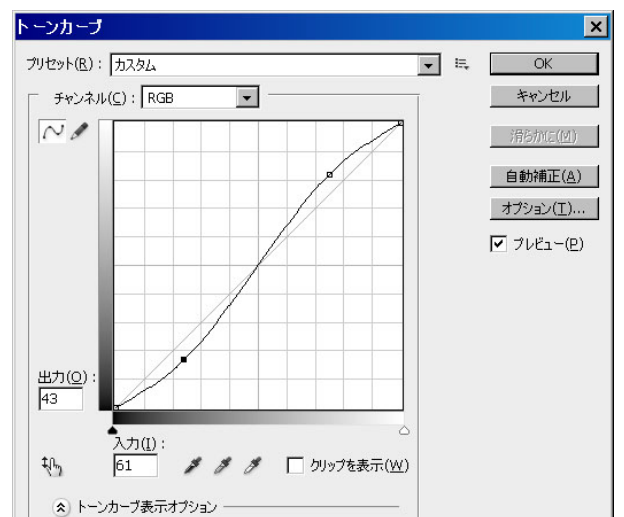
KSさんは地元や所属する日本広告写真家協会での総会のエピソードなど。6月は総会の季節のようだ。

SYさんは研究している「画像の顔検出」の原理と使い道について。詳しいことはさておき、肌の領域の検出は意外と難しいそうで、ホワイトバランスに依存しないモノクロ情報のコントラストの分布を抽出にを活用するらしい…。等々を持参した携帯ボードで分かり易く説明してくれた。

\*\*\*\*\*



## 基準点のポイントの見つけにくい画像の調整方法



画像のコントラストを強調する S 字カーブ





# Photoshop 研究講座 平野正志 講師 「レンズフィルター」

## ○レンズフィルターとは？

フィルム撮影時のゼラチンフィルターの様なフィルターが用意されている。暖色系、寒色系、LBA,LBB、そのほかの色のフィルターで、濃度も変えられる。画像を見ながら%を変えて適度な色調の部分を選ぶというわけだ。それぞれのフィルターのデータをカラーピッカーで表示できる。

## ○フィルターセットを作る

プリント判定フィルターの様に使えないかという発想がもとでしたので、フィルターのセットを作るようにレイヤーを束ねてみた。背景レイヤーが白の場合フィルターの色は表示されない。試しに背景レイヤーに少し濃度をつけてみる。色が表示された。フィルターレイヤーは残っているので、画像に重ねると効果が出てくる事が分かる。さてそこで気が付いたのがレイヤーのブレンド条件。通常のレイヤーは「通常」が初期設定だが、グループレイヤーの場合には「通過」という名前が増える。グループとなったレイヤーすべてを通過するように重ねるの意味かと思われる。

## ○色見本を画像に重ねてみる

フィルターセットで作った色見本を画像に重ねてみれば、そんなフィルターでどんな色になるかが一目でわかる。用意されたフィルターにはたくさん色があり、各色などのレイヤーを加えたり、CMYのフィルターを加えるのも良いだろう。ただしフィルターの数が多いのでフィルターの種類を増やせば増やすほど、どうしても一枚のサイズが小さくなってしまふ。画像の様々な部分で色調の変化を確かめるには、ある程度のフィルターサイズが必要と思われる。

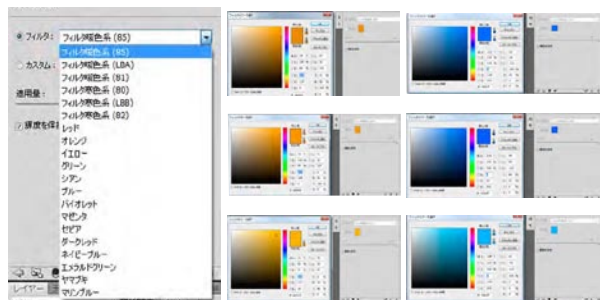
\*\*\*\*\*  
(コメントや意見の追加をお願いします)  
DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME)  
<http://www.digitable.info>  
\*\*\*\*\*



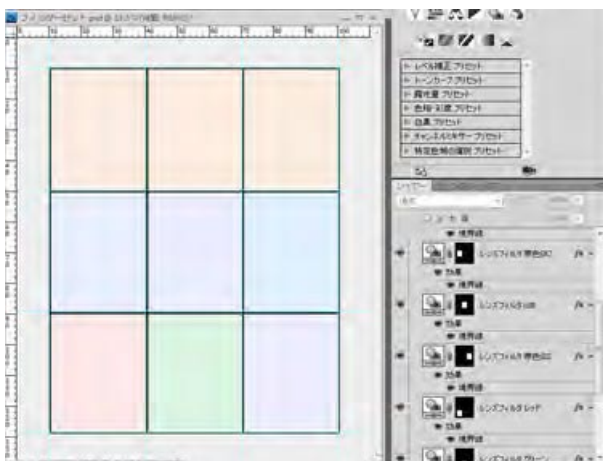
今月の1枚：SY 会員による「画像の顔検出」の原理説明



平野正志 講師



ゼラチンフィルターの様なフィルターが用意されている



フィルターの色のうち暖色系3色、寒色系3色そのほかにRGBをそれぞれレイヤーで作りそれぞれをまとめてグループ化した

